

2021年 1月 No.45

新年巻頭エッセイ



小林 征司

新しい年に

新年あけましておめでとうございます。

昨年はコロナウイルスの猛威の前に経済活動が大きく制限され、企業の倒産やそれに伴う失職者の増加で、さらに経済活動が停滞したり、第二波、第三波の感染拡大で医療体制が揺らぐなど負のスパイラルによる暗いニュースばかりが目立った1年でした。

でも、新しい年の夏には東京オリンピックがあります。災害で大きな被害を受けた地域の復興の証として日本の頑張りを世界中にアピールする絶好の機会です。

コロナについては、気を緩めることのできない厳しい社会環境ではありますが、いつまでも下を向いて怯えては立ち上がることは出来ません。

一人ひとりが出来ることをやる。皆が力を出し合って互いの助け合いや、弱い立場の人たちへの支援を進めましょう。ソーシャルディスタンスを守りながら思いの絆はしっかりと繋いで……。

〔苦しんでいる人への思いやり〕それを忘れたら人の世は冷たさのあまり凍りついてしまう。

“微笑みを忘れた人ほど それを必要とする人はいないのだから”

我らがNPO法人「希望」は小さな組織かも知れないが、障がいのある方にとっては何ものにも代えがたい暖かい心の拠りどころだと思います。

作業所である「どんぐり工房」へ通ってくださる皆さんは勿論、ご家族の方々の重い苦しみが明るい未来に少しずつ変わることを望んでいます。

「希望」という名にはそんな思いが詰まっているのです。

一歩また一歩、焦らず進む道に遠すぎるということはありません。

一人ひとりの腕は細く力も弱いですが、何人もが心を合わせることで強い意志と理解ある支援が生まれる。

立ち上がり明日に向かって先ず一歩、それがすべての「希望」へのスタート。

新しい年が明け、これからが寒さの本番。体調を崩さぬよう十分な

ご自愛で明るい一年になるよう祈ります。

そして『協調』。力を合わせて行きましょう。



* おたまじゃくしの

つぶやき*

「前期 高齢者」

伊佐 勉



私事で恐縮ですが、今年は区切りの年です。日本が長高齢化社会になって久しいですが、私も2月20日に晴れて(?)高齢化率の分子に入ります。高齢者の皆さま、若輩者ですが宜しくをお願いします。

私は「おひとり様」の障がい者です。ヘルパーさんをはじめ、いわゆるエッセンシャル・ワーカーの方々に日常生活と社会参加を支えられています。

できるだけ在宅で終章を迎えたいと願っています。

いい加減「断捨離」もしなければいけないのですが思うように身体が動かないので遅々として進みません。

何より内臓脂肪を断捨離したいのですが、備蓄倉庫と化している始末です。日毎に老人力をつけている所ですが、社会参加だけでなく社会貢献の手立てを手探りしていこうと年頭に誓います。

—コロナウイルス感染防止の 取り組みについて—



暮れからの第3次感染に備えて「どんぐり工房」も「だんらん」も最大限の予防策を講じて対処しています。毎日の検温・マスク・手洗い・うがい・消毒は習慣化されています。

一日も早い終息を願いますが、ご来所の折には関係者の皆様にもご協力をお願い致します。



「カレンダーの向こう」

とも作

カレンダーの写真には
もう一つの世界がある

可愛い動物たちが
やすやす寝ていた
花が彩を競っていたり
他にもたくさん
カレンダーという役割以上に
見るも者を和ませてくれる

大切な日に 丸を付ける時
別の心は写真の世界に飛んでいる

とも詩集第二十九作「光の住む村」より

新事務局長に 中山潤一氏



前大淵義明事務局長の退職に伴い、新たな事務局長として、中山潤一氏が着任いたしました。

中山氏は、長年民間企業に勤務され、その後自治会の責任者として尽力された方で、その豊富な経験を新しい希望の事務局長として発揮されることを期待されています。

どうぞよろしく願いいたします。